

港 の 風

MINATO

NO

KAZE

PORT OF KOBE

神戸港からのたより

vol. **56**

2024

春号



特集

令和6年度の神戸港／おかせりポータータワー

港の風

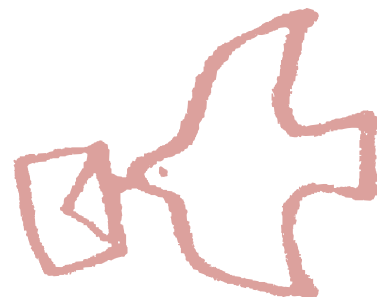
神戸港からのたより

Vol. 56

2024年春号

CONTENTS

- 01 はるかが行く 神戸みなとさんぽ 04
「海に浮かぶアレは何だ?! 編」
- 02 特集01
令和6年度の神戸港
国際競争力の強化と
持続発展するまちづくり
- 08 特集02
おかえり神戸ポートタワー！
2024年4月26日リニューアルオープン！
- 10 船インフォメーション
- 12 港で働く人
(株)神警エンタープライズ
古谷 優多さん
(株)SEVENSEAS CRUISER
森 愛絵さん
- 13 神戸空港NEWS
- 14 神戸海洋博物館・カワサキワールドだより
- 16 神戸港貿易統計データ
神戸税関こぼれ話
令和5年 神戸港貿易概況
- 18 神戸港を行き交う船
内航コンテナ船 まや
- 19 神戸港TOPICS
- 20 神戸港イベントNEWS
- 21 編集後記



「港の風～神戸港からのたより」

編集・発行 一般財団法人 神戸観光局 港湾振興部
〒650-0042 神戸市中央区波止場町2番2号
電話：078 (327) 8981 FAX：078 (332) 4739
<https://www.kobe-meriken.or.jp/>

令和6年度の神戸港 国際競争力の強化と 持続発展するまちづくり

～本年度神戸市港湾局主要施策より～

1

神戸港における 最近の取り組み

港湾物流を取り巻く環境は大きく変化していますが、神戸港の港勢は、コロナ前を上回る勢いで回復傾向にあります。

現在も神戸港では、概ね10年間に取り組むべき内容や方向性を示す「神戸港中期計画」、「神戸ウォーターフロントビジョン」、2050年カーボンニュートラル実現に向けた基本的な方向性を示す「神戸港カーボンニュートラルポート（CNP）形成計画」をもとに、「港湾・産業」「にぎわい・都市」「環境」の各分野で神戸港の競争力強化に取り組んでいるところです。

港湾緑地の管理と賑わい創出について

（国内初 港湾環境整備計画の認定）

新港第2突堤では、令和7年4月開業に向け多目的アリーナ（ジライオンアリーナ神戸）の建設が進められています。

国土交通省が進める港湾環境整備計画制度（みなと緑地PPP※）の国内第1号案件として令和5年度にアリーナ運営事業者を認定しました。

港湾環境整備計画制度とは、令和4年12月に創設された港湾緑地等において官民連携によりみなとの賑わいを創出するための制度であり、本制度の活用により、アリーナ運営事業者がアリーナ周辺の公共緑地に新たに飲食施設（カフェ、ブルワリー等を誘致）を整備するとともに、アリーナと一体的にスポーツや音楽・食のイベント等を開催するなど日常的な賑わい創出が期待されます。

※PPP=Public Private Partnership：官民連携

2

令和6年度 港湾局予算概算

カーボンニュートラルポート（CNP）

脱炭素化の動きは世界的な潮流であり、荷主や港湾事業者など、サプライチェーンの脱炭素化への意識が高まっています。神戸港では、カーボンニュートラルという新たな付加価値を提供することで、世界の荷主や船社から選ばれ続ける港湾を目指し、様々な取り組みを進めています。

具体的には、2023年11月から開始した停泊中船舶への再生可能エネルギー由来の陸上電力供給によるアイドリングストップや、神戸空港島周辺などの緩傾斜護岸におけるブルーカーボンの推進など既存技術を活用した取り組みでカーボンニュートラルポートの形成を着実に進めています。

一方で新技術を活用した取り組みとして、神戸空港島では液化水素の荷役基地が整備され、国際的な水素サプライチェーン構築のための実証事業や、ポートアイランドの水素によるガスタービン発電の実証実験が行われるなど、先進的な取り組みも進めています。

神戸空港の国際化

神戸空港は、2025年に国内線の発着回数を1日あたり最大80回から120回に拡大するとともに、国際チャーター便の運用を開始し、2030年前後には1日あたり最大40回の国際定期便の運用を可能とすることが2022年9月の関西3空港懇談会で合意されました。

神戸空港が、神戸経済の成長を担う観点から果たす役割は大きく、航空需要の拡大を図り、神戸のまちの成長・発展につながる取り組みを進めています。

令和6年度の主な取り組み

神戸市の令和6年（2024）度当初予算は、「海と山が育むグローバル貢献都市の実現」を掲げ、人口減少時代における持続可能な街づくりを進めていきます。

港湾局では、港湾における脱炭素化に向け、カーボンニュートラルポート（CNP）の形成に取り組み、日本の港湾物流を支える西日本のゲートポートとして、引き続き、国際コンテナ戦略港湾施策を推進します。

賑わい創出分野では、新港突堤西地区及び中突堤周辺地区を中心にウォーターフロント再開発を進めるほか、六甲アイランドのマリンパーク再整備を進めます。また、須磨海岸エリアでは、西エリアも含めた回遊性・利便性向上に向けた検討・整備等に取り組めます。

神戸空港では、2025年の国際チャーター便の運用開始・国内線発着枠の拡大に向けて、機能強化の取り組みを進めていきます。

安全・安心なみなどづくりでは、大型台風による高潮被害に対する再度災害防止に向け、引き続きハード対策を進めるほか、陸間等の遠隔操作化などを進めていきます。

次に、令和6年（2024）度における港湾局の各主要施策について、詳しくご紹介します。



国際コンテナ戦略港湾

国の国際コンテナ戦略港湾政策のもと、内航フェリーを活用した瀬戸内・九州・日本海側からの集貨や東南アジア-北米間をはじめとするトランシップ貨物の集貨に取り組み、航路網の充実を図ります。

また、高規格コンテナターミナルの整備に加え、大阪湾岸道路西伸部の整備や新・港湾情報システム「COMPAS」の導入など港湾物流の円滑化による生産性の向上を図ることで、神戸港の国際競争力を強化します。

さらに、総合港として、神戸港の高い荷役技術を発信しながら、在来貨物の集貨・航路誘致を積極的に進め、様々な貨物に対応できる神戸港のさらなる利便性向上に取り組むほか、脱炭素など環境に配慮した集貨

の取り組みも進めます。

また、物流の2024年問題やCO₂排出削減に対応した輸送モードとして期待されるフェリーの利用促進を図ります。



港湾荷役の様子

カーボンニュートラルポート(CNP)の形成

神戸港内の日常管理で使用している港務艇「きくすい」を水素燃料電池を搭載したハイブリッド型の新船にリプレースします(2026年度運用開始予定)。新たな船は、水素を燃料とし発電する水素燃料電池とバッテリーを搭載した日本初のEV港務艇で、緊急時にも対応できるようディーゼル発電機も搭載します。

また、カーボンニュートラルに向けたみなとづくりとして次世代クリーンエネルギーの実証に取り組めます。具体的には、空港島において、メタネーション技術や水素パイプラインによる輸送技術を活用し、発電された電力を空港施設や道路照明などの施設に供給します。

さらに、港湾の脱炭素化に向けた連携協定を締結している米国ロングビーチ港や、神戸市も参加し国レベルで協力関係にあるシンガポール港など、先進的な取り組みを進める海外諸港と連携し脱炭素化に向けた取り組みを調査・検討していきます。

2025年には、IAPH(国際港湾協会)が主催する世界港湾会議の神戸開催が決定しました。このIAPHが提唱するグリーンプログラム(ESIプログラム)への参加や脱炭素の取り組みを進める海外諸港と意見交換するなど、国際的な連携を進めます。



新型きくすいイメージ

ウォーターフロントの魅力向上

新港西地区では、新港第2突堤で建設が進められている多目的アリーナの開業（令和7年4月予定）に向け、動線となる歩行者空間の整備に加え、民間活力を導入した緑地整備や次期再開発用地を広場として暫定活用するなど、回遊性の向上と日常的な賑わい創出を図ります。また、第1・第2突堤間の水域活用の事業化に向けて、防波堤や親水エリアなどの整備を行うとともに、次期再開発エリアの事業化に向けた取り組みを進めます。

中突堤地区では、神戸ポートタワーのリニューアルオープン（4月26日）に合わせ、中突堤中央ビル南館跡地をイベント広場として暫定活用するとともに、中突堤エリア全体の再整備計画について検討を進めます。

京橋地区では、阪神高速3号神戸線の大規模更新事業に合わせて、船だまりの再整備を行うほか、新たな賑わいを創出に向け、神戸第2地方合同庁舎別館の解体に着手します。

また、夜間景観の魅力向上を図るため、分散型花火イベントに加え、年間を通じて週末に花火を打ち上げるほか、ライトフェスティバルの実施や、ウォーターフロントエリア内の夜間景観照明を連動させた新たな演出を行うなど、周辺の事業者と連携して取り組みます。



アリーナイメージ



中突堤整備イメージ

市民に親しまれるみなとづくり

ウォーターフロントエリアにおけるナイトタイムエコノミーを推進するため、分散型花火イベント「みなとHANABI」に加え、年間を通じて週末に花火を打ち上げるほか、イルミネーションによる夜間景観形成など、新たな賑わいづくりを周辺の事業者と連携して取り組みます。

海事分野の人材育成については、神戸海洋博物館における企画展などの取り組みに加え、青少年が海・船・港に親しみ港湾産業の重要性を学ぶ機会づくりとして、神戸港バックヤードツアー、みなとの学習会の開催を通じて、学校教育・海技教育機構・遊覧船など港湾関係事業者と連携した取り組みを進めていきます。特に、進路を検討する中高生を対象とした海事産業への就職を支援する取り組みを強化していきます。

また、六甲アイランドでは、マリパークの利便性や魅力向上のため、背後地の賑わい施設整備に併せて、海釣り広場や親水空間を中心とした再整備を進めます。



分散型花火イベント「みなとHANABI」

クルーズ受入れによる地域活性化

海外のラグジュアリー船を対象に、神戸発着の客船を誘致することで、みなとの賑わいを創出していきます。港と空港が近い地理的優位性を活かしたフライ&クルーズを推進するとともに、手荷物輸送サービス(KOBE PORTER)により、フライ&クルーズの利便性を向上させ、快適な市内観光を提供します。さらに、瀬戸内のホームポートとして海外船社へ瀬戸内クルーズの魅力を発信し、神戸港発着の客船誘致強化を図ります。



2024年神戸港へ最初に入港した外国船ZUIDERDAM

須磨海岸エリアの魅力向上

須磨海岸では、隣接する神戸須磨シーワールドが開業することに合わせて、家族連れを始め、より多くの方々に須磨海岸に足を運んでいただけるような取り組みを進めていきます。

夏に開設される須磨海水浴場では、お酒の持ち込みや飲酒を禁止し、クラゲよけネットを張った遊泳エリア「スマイルビーチエリア」設置しており、安心して海水浴を楽しんでいただけます。

また、昨年度好評であった須磨と淡路島を結ぶ海上航路実証実験(スマアワ)や、ビーチスポーツ等のイベントを今年度も開催し、四季を通じた賑わいづくりに取り組んでいきます。



須磨海岸

神戸空港の機能強化

2025年の国際チャーター便の運用開始・国内線発着枠拡大に向け、駐機場（エプロン）の拡張をはじめ、新ターミナルの整備や先進的・効率的な保安検査機器の導入など、国際空港としてふさわしい機能を備えた利便性の高い施設整備を進めます。

また、さらなる航空需要の拡大を図るため、新規エアラインの誘致や、空港アクセスバスの拡充による広域交通ネットワークの強化をはじめとした神戸市以西の新たな市場開拓など、ハード・ソフト両面から取り組みを進めます。



神戸空港整備イメージ（2025年）

安全・安心なみなとづくり

2018年の大型台風による高潮被害を受け進めている、再度災害防止対策では、ポートアイランドにおいて、排水ポンプ整備や道路の嵩上げなどによる緊急輸送路の浸水対策に引き続き取り組むほか、六甲アイランドにおいても荷捌き地や背後道路の地盤嵩上げを引き続き進めます。

また、発災後、短時間で到達する津波に対し、防潮鉄扉等を迅速・確実に閉鎖するとともに、閉鎖従事者のさらなる安全確保を目的に、防潮鉄扉等の遠隔

操作化に順次取り組んでおり、2024年度末には、神戸港全域の遠隔操作化の完了を目指しています。



六甲アイランド嵩上げ工事の様子

3

おわりに

神戸市では、人口減少時代にふさわしいまちづくりに全力で取り組んでいきます。そのために、SDGs（持続可能性）の視点に基づき、くらしの質と都市の価値を高め、都市の成長を促す好循環を創出していきます。

神戸港においても、「神戸港中期計画」や「神戸ウォーターフロントビジョン」に掲げる方向性に基づき、令和6年（2024年）度予算で取り組む施策を着実に推進し、「港湾・産業」「にぎわい・都市」の両面から、国際競争力強化と持続発展するまちづくりに貢献してまいります。

おかえり神戸ポートタワー！ 2024年4月26日リニューアルオープン！

4月26日にリニューアルオープンが決まった神戸港のシンボルを徹底解剖。

“地域で愛され、世界に認知される神戸のランドマークへ”リニューアル内容をお届けします。

ポートタワー、何が変わった？

魅力たっぷり！ 新しい施設とお店

展望フロア

5階

エレベーターが着床する最上階フロア。思い出の写真が撮影できるフォトブースも設置される展望室「Smile Park」に生まれ変わります。

4階

「赫き」をテーマに、神戸のモチーフを散りばめたネオン風アートや、インタラクティブアートが展示される光のミュージアム「Brilliance Museum」。

3階

全国でも希少な360度回転床を活かしたカフェ&バー「Ready go round」では軽食と共に、変わりゆく景色が楽しめます。



2階

グッズショップ「Kobe Port Tower Shop by Felissimo」では、限定品やお土産、神戸ポートタワーのオリジナルグッズが購入できます



1階

ポートタワーの「くびれ」にあたるこのフロアはギャラリーに。

神戸港を一望できる屋上デッキ

初登場の屋上階「Brilliance Tiara Open-air Deck」は、神戸港や市街地を360度見渡せる場所。行き交う船や刻々移ろう山や街を眺める新名所になる予感。

※移動手段は展望5階から階段のみです。



低層フロア

4階

3階



兵庫産のフルーツを使ったスイーツやドリンクなどを味わえるカフェ&バー「PORT TERRACE」。新設の屋外テラスでは、海風にあたりながら食事を楽しむことができます。

2階



神戸の魅力が詰まったアイテム等を扱うショップ「イコリ」、「ポートアレイ」、「ビームス ジャパン 神戸」がオープン。神戸限定アイテムも販売されます。

1階

1階のエントランスエリアでは、プリリアスな光る!? ソフトクリームを販売。チケット売り場やインフォメーションもこちらへ。

入場料 (展望フロア・屋上デッキ)

一般	入場料 (消費税 10% 込)	
大人 (高校生以上)	展望フロア	1,000円
	展望フロア+屋上デッキ	1,200円
こども (小学生以上 中学生以下)	展望フロア	400円
	展望フロア+屋上デッキ	500円
幼児 (未就学児)	無料	



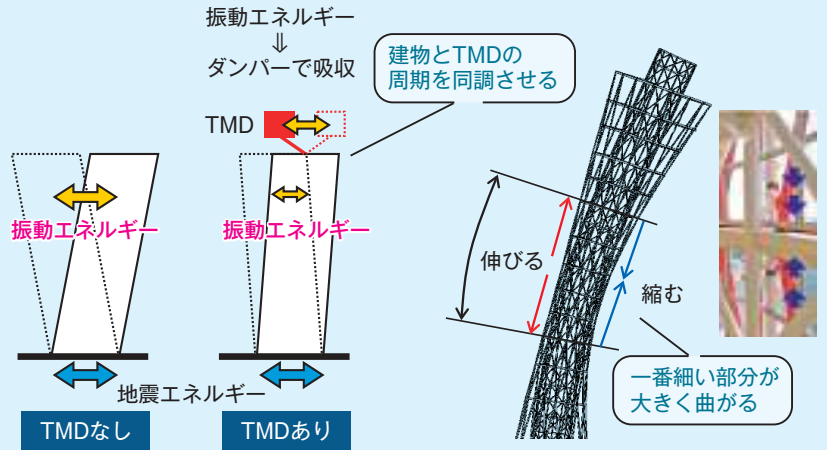
神戸ポートタワー | Q

<https://www.kobe-port-tower.com>

※各種割引あり (65歳以上、障がい者など)
詳しいチケット情報や購入方法は Web サイトをご確認下さい。

耐震化でパワーアップ！

タワーの頂点にはTMD (Tuned Mass Damper) と呼ばれる制振装置を設置。TMDは、揺れに同調する振り子のようなもので、地震が発生すると共振しておもりが大きく振動します。このおもりの振動エネルギーをダンパーで消費することで建物の揺れを抑制する仕組みです。ダンパーとは、揺れを吸収・減衰する制振装置で、タワー中間部には劣化しにくいオイルダンパーが設置されています。今回の耐震化により、地震発生時の揺れが大きく低減されています。



TMDの制振効果イメージ

オイルダンパーのイメージ

還暦を迎えたポートタワー、これからも”赫き”続けます



ポートタワーは1963年11月21日に開業



開業当初から
たくさんの方々に
親しまれていたようです

2013年には開業
50周年を迎えました



2021年9月より改修工事を開始



2023年12月21日に再点灯しました

ポートタワーは60歳、還暦を迎えました。今までもこれからも神戸港を明るく照らしてくれる存在。このリニューアルオープンを機に初めての方ももちろん、タワーに慣れ親しんだ方も再び訪れてみてはいかがでしょうか。

神戸ウォーターフロントエリアの活性化に向けて

神戸ポートタワーは神戸港のランドマークとして、60年間神戸市民に愛されてきましたが、この度のリニューアルにより、国内外の観光客にも楽しんでいただける施設になるとともに、神戸ウォーターフロントエリア活性化の一役を担うものと考えております。今後も、周辺事業者の方々とも連携し、ウォーターフロントエリア全体を盛り上げてまいりたいと考えておりますので、引き続きご支援、ご協力の程よろしくお願い致します。

神戸ウォーターフロント開発機構
再開発課長 森 倫也

